川崎市教育委員会賞

僕が願う川崎の未来

下河原小学校　６年生　グエン アン トゥアン

「ねえ、将来、川崎ってどんな所になるんだろう？」これは僕と友達との会話だった。

「そうだね、どうなるんだろう。未来が楽しみだな。」その後友達は塾に行くために家に帰ったから、僕も家に帰って宿題をやりながら未来の川崎を自分の頭の中で、想像する。その前にまず僕のことを紹介する。

僕はベトナム人で三さいのときに日本にやってきた。最初は、元住吉駅の近くに住んでいたけど、四さいの頃、お父さんの会社の職場が変わったから家もひっこした。そんなこんなで、今は市バスの営業所の近くに住んでいる。元住吉駅に住んでいた頃は、よく元住吉駅で電車を見たり、お母さんと一緒にブレーメン通り商店街へ買い物に行った。だけど、ひっこした先では同じ商店街で買い物ができない。その代わりに今度は平間商店街へ買い物に行った。ひっこしたあともたまにブレーメン通り商店街に行ったこともあったけど、三さいのときのブレーメン通り商店街の様子とはちょっと違っていた。昔あった店がなくなっていたり、新しい店ができたりしていた。でもそれは、新しく通うことになった平間商店街も同じで、最初あった店が僕がここに住んでいるうちに、なくなったりそのあとを使って新しい店ができたり。しかし昔の風景とかわることは僕はあんまり好きじゃなかったけど、数店舗ぐらい残っているお店を見て安心した。商店街を通るとき昔はこんな店舗があったなあと、昔の商店街の様子を思い出していた。だから、僕の一つ目の将来はなるべく昔のままの風景を残して行けるといいなと思った。

僕が二つ目に願う川崎の未来は、建物等や、道路などの老朽化などが直されて、バリアフリーや、ユニバーサルデザインを取り入れたりお年寄りの人や子供と、障害がある人も誰もが安全に、毎日を過ごせることだ。僕は一回危ない目にあったことがある。道を歩いているときにヒビが入った歩行者用道路でつまずきそうになったのだ。もし、僕が高齢者や、小さい子だったらどうなっていたかわからない。だから、道や駅などの公共施設を整備することで危険などがない川崎の未来が欲しいと思った。

三つ目は公共施設などにその場所の特徴の翻訳版や、マップが設置されて、外国などから来た人が川崎のことをもっと知れるようになること。僕にはいとこが六人いる。ちょっとした大家族で、毎年ベトナムにいるいとこたちがよく日本に遊びに来る。いとこたちは英語も中国語もペラペラだけど、日本にきた

ときには一つだけ困ったことがあった。それは、海外の人向けの表示版が少なく、スマホだよりになってしまうことだ。ずっとスマホをたよりにしていたいとこたちは、途中でスマホのバッテリーが切れてしまった。その時は僕が一緒にいたから、僕がスマホの代わりにガイドすることができた。そんなときに翻訳版のマップを設置すると外国人が安心して観光できたり川崎市がもっと外国人にオススメな観光スポットになるのではないかと考えた。これは僕の意見だけで、他の人はそのひとそれぞれのアイディアや他の人の意見や願いを持っているから決して僕の願いがすべて良いというわけではないことはわかっている。なぜかというと、川崎市のシンボルマークの意味「いろいろって未来」のように、たくさんの人々の意見で川崎市はさらに良い未来をつくっていくので、僕は未来の川崎の状態を見るのが楽しみだ。